

# 元八王子見て歩き⑫

## 八王子城

諏訪町

渡辺 嘸

写真 大楽寺町 野崎 清



虎 口



坎 井



落城記念碑



八王子神社



本丸跡



御主殿の滝



御主殿跡



曳 橋



大手門の跡

### 築城と城下宿の活況

永禄12年（1569）北条氏照の居城滝

山城は武田軍による十里合戦の敗北と本城の信玄親子の攻撃により落城寸前にまで追い込まれた。これを機に、より堅牢な城郭の必要性のため神護寺山（八王子城山）に白羽の矢を立てる。

本格的な築城は1580年代に入つてからと思われるが、それに伴つて滝山からの移城が始まつた。戦闘性を目的として要害地と居館地が明確に分離され、曲輪（くるわ）と称する土手や石垣で囲まれた防御拠

点を随所に配置した。城下三宿にも続々と人が集まり武士勢も含め人口一万人ほどになり活況を呈した。しかし、群雄割拠の流れは次第に統合され全国制覇を目指す豊臣秀吉軍の足音が迫つていた。

### 落城と城下宿の衰退

天正18年（1590年）秀吉の命を受けた上杉景勝、前田利家の軍勢が八王子城を囲む。運命の6月23日払暁、怒濤の勢いで

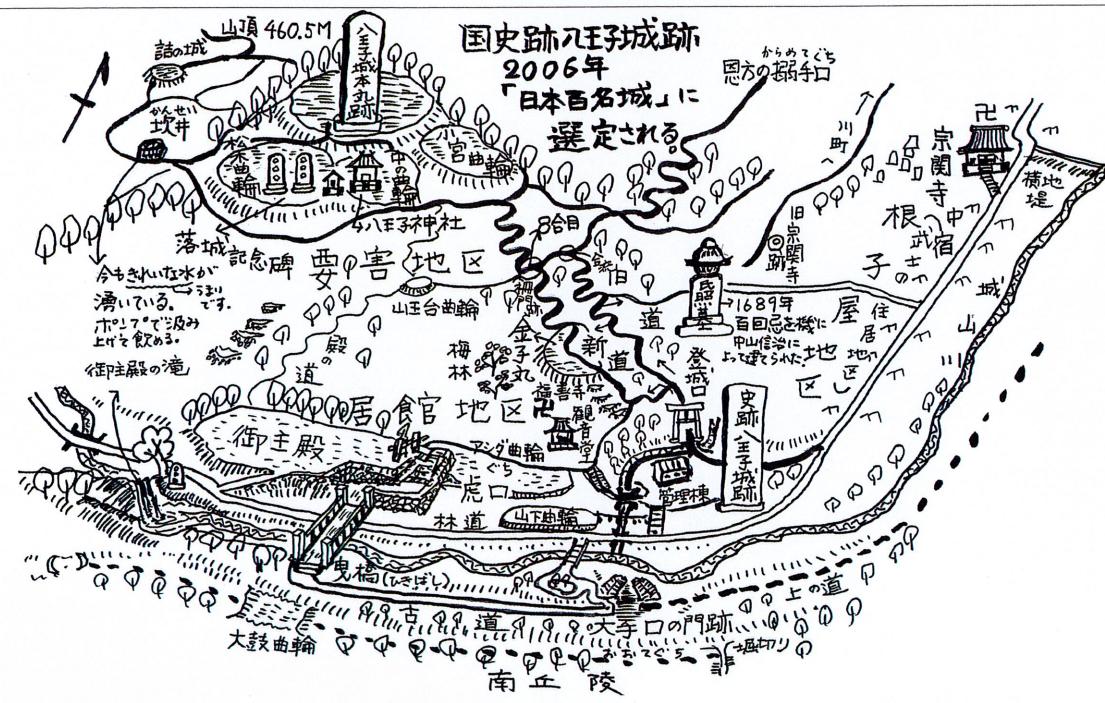
攻撃が始まつた。豊臣方の精銳兵に対し北条方は農兵、僧、修驗、職人等が大部分で、

多勢に無勢の戦いは、さすがの八王子城も1日足らずして落城の運命となつた。

悲劇的なのは城内の多くの婦女子が運命を共にしたことである。追いつめられて御主殿の滝付近で自刃しが飛び込んで果てたのである。城主氏照は小田原城におり、当城には不在であつたことが全面的な統率を欠いたのでなかろうか。

戦国末期のこの攻防戦で秀吉による全国制覇が整い、王子城は廃城、永く眠りにつく。城下三宿の住民は大部分が離散し急激に衰退していった。

近年八王子城の発掘調査が始まり、次々に城全体の様子が明確になつてきた。わが町の偉大な誇りある史跡を深く探求しつつかりと保存し、後世に伝えていきたい。





八幡社の桜並木



宗閑寺裏山の桜



ホーメストタウンの桜並木



元八小正門の桜



神戸の堤防の桜

## 元八王子見て歩き⑬

桜のある風景と連載後記

解説と地図 諏訪町 渡辺 嘴

写真 大楽寺町 野崎 清

元八王子は関東平野の西山麓帶の一部の位置にあり、あんげ道や、かまくら道が東西南北に交差した、人々と物資の集積した地域である。

山あり川あり、丘や台地の広がっている豊かな自然と悠久の歴史に抱かれた多様性に富んだ郷土である。

人口増による急激な発展が田畠や丘の緑の急速な減少をもたらしているが、まだまだいたるところに古き良きもの・古道・旧道・野道・山道などが残り、路傍の地蔵や庚申塔・道標や馬頭観世音などがあちこちにあって親しみを込めて迎えてくれる。

よく見つめて歩くとかタクリ・フデリンドウ・タツナミソウ・イチリンソウなど野の花がそっと顔をのぞかせてくれる。カケス・コグラ・オナガ・ウソ・イカルなどの鳥たちにも出会うこともしばしばである。



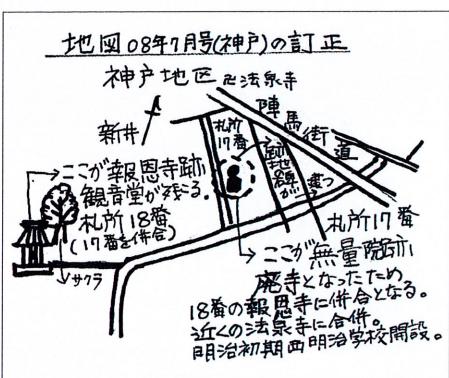
城山川遊歩道の桜



神戸の仮橋復旧



報恩寺跡



渡辺  
暎

「元八王子見て歩き」  
は大学の学友野崎清君  
と共に探索し実地踏査  
をして一年間の連載と  
して作成しました。不  
十分な面も多々あります  
が、読者の皆様の  
「見て歩き」に少しで  
も参考の友となれば幸いに思います。

写真と編集に熱意をもつて担当し  
清君に感謝申し上げます。  
渡辺暎

最近碑が建てられた  
無量院跡の碑



元八地区内に咲くカタクリ



雑木林の落ち葉の積もつた道を歩くのもなんと

も快い。狭い路地や川に沿う遊歩道、神社仏閣への道、旧家の併ま

りに自由に道を見つけて、よき友と大いに歩きたい。何気なく出会った人と語るもの楽しいものである。小さ

な発見、小さな感動が日常生活を楽しく豊かにし、明日への夢や希望へと心を大きく広げてくれるでしょう。